

群 教 セ	G02 - 03
	令4.281集
	社会-中

予想と振り返りの充実による 学びに向かう力の育成

—— ICTによる予想と振り返りを比較するための学習シートと
学習支援のための集約シートの作成と活用を通して——

特別研修員 茂木 一道

I 研究テーマ設定の理由

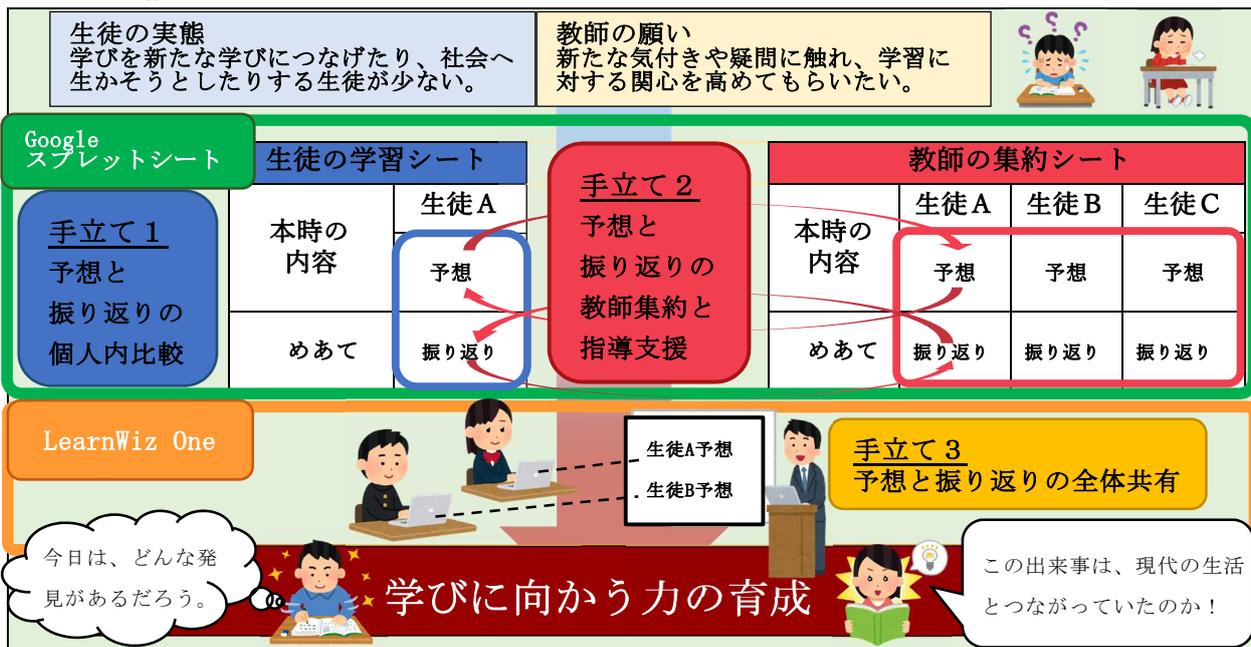
『平成29年告示中学校学習指導要領社会編』、歴史的分野、「学びに向かう力、人間性等」のねらいでは、歴史に関わる諸事象について、課題を主体的に追究し、解決しようとする態度を養う必要性が挙げられている。また、児童生徒が「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を取り入れる」ことが学習指導要領総則に記載されている。

研究協力校（以下、協力校）では、ICTの活用が進み、共同編集機能を生かしたグループワークを通して、友人や教材と対話をし、課題を解決することができる生徒が多い。しかし、各自の振り返りを見ると、学習した知識がそのまま書かれ、学びを新たな学びにつなげたり、社会へ生かそうとしたりする生徒が少ない。そこで、振り返り場面では、本時の学習内容を踏まえ、学習の中での新たな気付きや疑問を記載することで新たな学びにつながる視点を獲得できると考えた。振り返った内容を全体で共有することで、様々な気付きや疑問に触れ、学習に対する関心を高めたり、自分の考えを深めたりして、学びに向かう力を育てることができると考え、上記のとおり主題を設定した。

また、国立教育政策研究所発行、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』では、「指導と評価の一体化」を図り、資質・能力を確実に育成していくことが大切であることが挙げられている。ICTを活用して、生徒の学習状況を集約し、蓄積することで、教師が生徒に対して「学習改善」を促す支援を瞬時にできることで着実に学びに向かう力を育成することにつながると思う。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

学びに向かう力の育成に向けた授業を展開することができるように、次のような手立てを用いた。

手立て1	既習事項から予想したことと学習したことを個人内比較する学習シートの作成及び活用
手立て2	学習シートの予想と振り返りを集約する集約シートの作成及び活用
手立て3	「LearnWiz One」を利用した予想・振り返りを全体で共有する場面の設定

手立て1の学習シートとは、生徒の毎時間の予想と振り返りを蓄積したシートである(図1)。学習前に、単元を貫く問いに対する現時点での考えを記録する。さらに、一単位時間ごとに、予想と振り返りを記録する。学習後には、蓄積したものを参考にして、単元を貫く問いに対する答えを記録する。単元全体を通して予想と振り返りを比較することで、自分の考えをもって学習に向き合うことができるようにする。

歴史	4章	2節	単元名	開国と幕府の終わり	名前	番号
単元を貫く問: 日本を支配していた江戸幕府は(40年間の間に)なぜ(何が起きて)滅亡したのか					生徒A	
日付	学習前		単元を貫く問に対する現時点での考え		政治など何もかも支配している幕府に対して不満を持った江戸から遠い人たちが留給して江戸を攻めたから。(江戸から遠い人は権利がないもなかったから)	
2022-10-21	1, 日本を取り巻く世界情勢の激化	今日の学習の予想 東アジアはどうなってしまうのか	今日の学習の振り返り(英) キーワード赤字で 自己評価(緑) A: よくわかった B: わかった C: わからなかった		幕府は強い姿勢を見せていたけど、やっぱり強い国には勝てないんだと思った。	
2022-10-21	2, 諸藩の改革と幕府の衰退	今日の学習の予想 諸藩や幕府は飢きん(財政の悪化)を乗り越えるためにどんなことをしたのだろうか	今日の学習の振り返り(英) キーワード赤字で 自己評価(緑) A: よくわかった B: わかった C: わからなかった		改革を起こした	
学習課題 飢きんや財政の悪化に対して、諸藩や幕府はどのような改革を行ったのだろうか					大きい飢きんのあとは毎回改革が起こっているとわかった	

図1 生徒用学習シート(Googleスプレッドシート)

手立て2の集約シートとは、生徒が記録した学習シートのデータを、教師のシートに集約したものである(図2)。生徒の意見を瞬時に確認し、学習改善を促す支援を行える。

手立て3の「LearnWiz One」は、投稿された意見を集約し、他者のものも閲覧できる仕組みをもったツールである(図3)。全体で共有を行うことで、様々な気付きや疑問に触れ、学習に対する関心を高めたり、自分の考えを深めたりする。

名前	番号	名前	番号	名前	番号
生徒A		生徒B		生徒C	
政治など何もかも支配している幕府に対して不満を持った江戸から遠い人たちが留給して江戸を攻めたから。(江戸から遠い人は権利がないもなかったから)		藩と幕府で対立するよう出来事が起こった		政治の不満などから幕府を滅ぼす人々が現れたのではないかと	
段々と支配されたが、頑強に抵抗して自国に帰らせた。		通商や戦争などで欧米に支配されていた		開国を拒否された	
幕府は強い姿勢を見せていたけど、やっぱり強い国には勝てないんだと思った。		日本はじめ、欧米諸国に対し強い姿勢を示していたが、アヘン戦争で清がイギリスに負けたことで、欧米諸国を恐れた		三角貿易でイギリスは強いと思ったイギリスは不平等な通商条約を中国に結ばせたことがわかった	
改革を起こした		工業や政治の改革を行った		改革を行って制度を変えた	
大きい飢きんのあとは毎回改革が起こっているとわかった		諸藩では工業を中心に改革した幕府は農業を中心に、失敗した		幕府の農業中心の改革より諸藩の商業を中心の改革のほうが成功していることがわかった。	

図2 教師用集約シート(Googleスプレッドシート)

諸藩の動きに対して、第二次長州出兵が起きたが、幕府が負け大政奉還をして幕府の政治を終わらせた。また戊辰戦争なども起きた。幕府が終わった原因は正しい判断ができなかった。
諸藩の動きに対して新政府が戦いに勝った。原因は、幕府が失敗を繰り返して、正しい判断ができなかったから。

図3 「LearnWiz One」集約画面

III 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1を用いて集約された「予想」からは、前時までの学習で学んだ事実のみが書かれることが多くあったが、手立て2による即時支援によって「振り返り」には、本時の学習で学んだ事実が加えられた。手立て3を用いた「予想」と「振り返り」の全体共有によって、他者の意見を参考に自分の考えを深めたり、新たな学びにつながる視点を獲得できたりし、毎時間考察をした「幕府の政治判断」や、今の生活に活かせる学びなども書かれるようになった。

2 課題

- 手立て1、手立て2として、授業時間内での「振り返り」入力の際の時間の確保が必要である。そのため、単元計画において、学習内容を精選する必要がある。
- 手立て3として、様々な気付きや疑問に触れ、考えを深めることができている状況を見取る工夫が必要である。

実践例

1 単元名 「開国と幕府の終わり」 (第2学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、欧米諸国のアジア進出と関連付け、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的社会的な影響により江戸幕府が滅亡し、長きにわたる武家政権が終わったことを学習する。

つかむ過程では、大名配置や琉球からの通信使、江戸幕府の残り年数などの資料から「日本を支配していた江戸幕府は、なぜ滅亡したのだろうか」という「単元を貫く問いに対する現時点での考え」を学習前に記録させた。また、見方・考え方として「幕府の政治判断」を設定し、「対外関係・社会の変化・諸藩の動き」に対してどのような政治判断をしたのかを単元全体で見えていくことも確認し、見通しをもたせた。

追究する過程では、つかむ過程で設定した見方・考え方を活かして、欧米諸国の来航に対し、飢きんや財政の悪化などの社会の変化に対し、開国による対外政策や社会の変化に対し、諸藩の動きに対して、幕府がどんな政治判断をしていったのかを理解していった。

まとめる過程では、「学習シート」に蓄積した毎時間の予想と振り返りを参考にして、「単元を貫く問いに対する答え」に自分の考えをまとめさせた。毎時間の予想と振り返り、単元の予想と振り返りを比較しながら学習を進め、単元全体で学びに向かう力の育成を目指した。

以上のような考えから、本題材(単元)では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 幕府の政治の展開について、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。(知識及び技能) (2) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、幕府の政治の展開について近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。(思考力、判断力、表現力等) (3) 幕末の江戸幕府の政治の展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 知識・技能 欧米諸国のアジア進出に対する清の動きと、日本の開国と貿易の拡大による政治的・経済的・社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめている。 (2) 思考・判断・表現 工業化の進展とそれに伴う政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の東アジアへの進出が日本の政治や社会に与えた影響を考察し、事象を相互に関連づけるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 欧米諸国における「近代化」の進展と東アジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・大名配置や琉球からの通信使、幕府領地割合などの資料と江戸幕府の残り年数などの資料から出てきた課題意識を基に、単元の課題を設定する。 [単元を貫く問い] 日本を支配していた江戸幕府は、なぜ滅亡したのだろうか。 ・アヘン戦争を取り上げ、三角貿易の仕組みと南京条約の内容、それに対する幕府の対応の資料を基に、幕府の対外政策の変更について調べ、まとめる。
追究する	第2時	・改革に成功した諸藩と幕府の改革の結果、大塩平八郎の乱の経過や結果の資料を比較して、農業重視の改革を進めたことにより幕府が弱体化したことについて調べ、まとめる。
	第3時	・当時結ばれた条約の条文や金銀の交換比率が分かる資料を基に、不平等な条約が結ばれ、貿易での不利益が生じたことで幕府が弱体化したことについて調べ、まとめる。

	第4時	・第二次長州出兵、大政奉還(王政復古の大号令)戊辰戦争を取り上げ、幕府存続を視점에、社会的事象に対する幕府の政治決断の是非を考える。
まとめ	第5時	・開国と幕府の終わりの学習における、単元の課題についてまとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第4時に当たる。これまでの学習で、「欧米諸国の来航に対し対外政策を変更したこと」「飢きんや財政の悪化などの社会の変化に対し農業重視の改革を実施したこと」「開国による欧米諸国との対外政策や社会の変化に対し政治判断を下すことができなかつたこと」への予想と振り返りを蓄積してきた。本時は、第二次長州出兵、大政奉還(王政復古の大号令)、戊辰戦争などの諸藩の動きに対する幕府の政治決断の是非について、幕府存続を視点に考える学習である。まず、「幕府が倒れることになった原因はどこにあったらうか」という問いに対する予想を「学習シート」に記録した。次に、教科書を使って調べた事実をGoogle Jamboardにまとめ、それぞれの歴史的事象から読み取れた結果や影響、関わった人々の考えや判断を生徒の意見を基に板書で構造化した。最後に、板書でまとめられた事柄を比較しながら、自分の考えをまとめていった。まとめの過程では、グループでの協議も行い、自分の考えを広げたり深めたりしたところで振り返りを行い、「幕府が倒れることになった原因はどこにあったらうか」について再考させ、再考したものを振り返りに入力し、予想と比較した。さらに、一人一人が考えた予想と振り返りは「LearnWiz One」を活用して全体で共有していった。

手立てについての具体的な内容は、次のとおりである。

手立て1 既習事項から予想したことと学習したことを個人内比較する学習シートの作成及び活用 (Googleスプレッドシート)

本時までの「対外関係・社会の変化」に対する幕府の政治判断を参考に、仮説に近い形で本時の予想を立てることができるので、学習で生まれた気づきを新たな学びにつなげることができる。また、自分が蓄積してきた学習の記録から予想することで、本時の学習に対し、自分の考えをもって学習に向き合うことができる。

手立て2 学習シートの予想と振り返りを集約する集約シートの作成及び活用 (Googleスプレッドシート)

グループの協議において、意見交換ができない生徒が集まったグループを「集約シート」から把握し、教師が協議を促すために話し合いに参加した。「学習改善」を促す支援を瞬時に行えることで学びに向かう力の確実な育成を図ることができる。

手立て3 「LearnWiz One」を利用した予想・振り返りを全体で共有する場面の設定

振り返った内容を全体で共有することで、様々な気づきや疑問に触れ、自分の考えを深めたり、学習に対する関心を高めたりすることが期待できる。

4 授業の実際

(1) 予想する場面

前時の復習をするとともに、本時の学習課題を提示した。ICT端末で「学習シート」を開かせ、本時の学習課題に対する予想を入力させた。当初、断片的な既習の知識を中心とした記載が多かった。入力したものを「LearnWiz One」に投稿させて全体共有をしたことで、全体で前時までの学習内容から根拠を示しながら、予想を立てることができた。

全体共有した予想と自己の予想とを比較し、修正する

際、ペアで補完できるような体制をつくった。なぜそのような予想を立てたのか、前時までの学習内容から根拠を考え伝えている生徒も見られた(図4)。



図4 ペアと共有する生徒

(2) 振り返る場面

江戸幕府の滅亡に関わる出来事として、「第二次長州出兵」「大政奉還(王政復古の大号令)」「戊辰戦争」を取り上げた。それぞれの歴史的事象から読み取れた結果や影響、関わった人々の考えや判断について教科書を使って調べ、Googleジャムボードにまとめた。まとめたものを黒板で構造化し、3つの出来事を比較したり評価したりしながら、「幕府が倒れることになった原因はどこにあったのだろうか」という問いに対して再考し、自分の考えをまとめた。その後、グループでの協議も行い、自分の考えを広げたり深めたりしたところで振り返りを行った(図5)。「集約シート」に集まった生徒の意見から、本時の課題に対する予想と振り返りを比較すると、予想では「出来事」に視点があるが、振り返りでは「政治判断」に視点が当てられていることが分かり、より概念的知識に近い理解が得られているようになっている(表1)。しかし、授業時間内で一人一人が予想と振り返りを比較する時間がとれなかったため、自分の考えの変化を見取る時間の確保が必要である。



図5 自分の考えを伝えあう生徒

表1 生徒Aの場合

○本時の学習課題「幕府が倒れることになった原因はどこにあったのだろうか」	
<p>予想 諸藩が強くなり、戦争が起こったから。</p>	<p>振り返り <u>何度も失敗を繰り返したから。</u></p>
○単元を貫く問い「日本を支配していた江戸幕府は、なぜ滅亡したのか」	
<p>学習前 幕府への不満が高まり、争いが起こった。</p>	<p>学習後 江戸幕府は、開国をしたが不平等な条約を結び政治や経済で混乱を多く招いた。また、尊王攘夷の考えが広まり、倒幕へと動いた。そして、幕府と対立した諸藩が内戦に勝利し倒れた。江戸幕府は、<u>失敗を繰り返す</u>、正しい判断ができなかったことが原因で滅亡した。</p>

5 考察

単元終了後の生徒のアンケート、「予想をした授業のよかったところを書いてください。」という質問では、「意外な発見や予想が当たっていたことでのモチベーションが高くなる」「自分で考えようとする意識が生まれた」「振り返りをする時に自分の予想とどのような点で違ったのか深く考えることができた」などの意見があった。学習に対する関心を高めたり、自分の考えを深めたりして、学びに向かう力を育てることをねらいとしていたため、生徒の言葉として出てきたことは、一定の成果があったのではないかと考える。「学習シートのよかったところを書いてください。」では、「単元をまとめる時に、今までの予想・振り返りが記録されているため、単元を貫く問いに対する答えが書きやすかった。」という意見があった。表1のように、本時の振り返りを使って、単元を貫く問いに対して答える生徒も多く、単元全体で見たときにも効果があったと考える。しかし、授業時間内での「振り返り」入力までの時間の確保を考えると、目的に応じた学習内容の充実と精選の工夫が必要である。

6 資料

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

Google、Google スプレッドシート、Google Jamboard、Google Workspaceは、Google LLCの商標又は登録商標です。

LearnWiz Oneは、株式会社LeanWizの商標又は登録商標です。スタディサプリは、株式会社リクルートの商標又は登録商標です。

なお、本文中には ™ マーク、® マークは明記していません。